

おりょうりとうさん



おりょうりとうさん

さとうわきこ 作・絵 フレーベル館

サトウ

カレーライスを作ることにしたお父さん。「お父さんじゃいやだ」と逃げる野菜をどあみでパッ!「ますそう」と逃げる家族も、どあみでパッ!ところが食べてみると、おいしいのでびっくり。今度は野菜が言いました。「お父さんじゃなきゃいやだ!」

かいじゅうたちのいるところ

モーリス・センダック さく じんぐうてるお やく 富山房

センタ

いたずらの罰に、夕飯ぬきで寝室に放りこまれたマックス。夢か現か、部屋に現れた海にのりだしたマックスは、かいじゅうたちの島に流れ着き、その島の王様になります。けれどもマックスは急に寂しくなって……。

かいじゅうたちのいるところ



モーリス・センダック さく じんぐうてるお やく



かさ

太田大八 作・絵 文研出版

オオタ

雨の降る中、お父さんの傘を持って、女の子が駅へお父さんをお迎えに行きます。お友だちとすれ違い、ケーキ屋や人形屋をひやかして、女の子は駅へ向かいます。モノクロの雨の町を通り抜けていく、女の子の赤い傘が印象的です。

がたごとがたごと

内田麟太郎 文 西村繁男 絵 童心社

ニシム

野をこえ山こえ列車が行きます。がたごとがたごと。駅で降りるお客さんは……あれれ?乗ったときと様子が違うようです。野をこえ山こえ、がたごとがたごと。次に降りてくるのはどんなお客さんでしょうか。



がたたんたん

やすいすえこ 作 福田岩緒 絵 ひさかたチャイルド

フクタ

電車に乗りあわせただけの知らない人どうしが、ふとしたきっかけで心をふれあわせる様子を、モノトーンからカラーに変わる絵で表現しています。きっかけさえあれば、心を通わせるのって簡単なんです。

ガンピーさんのふなあそび

ジョン・バーニンガム 作 みつよしなつや 訳 ほるぷ出版

ハニン

ガンピーさんが船に乗ろうとすると、動物たちも次から次へとやってきて、一緒に乗り込んでしまいました。ガンピーさんの「いいとも。とんだりねたりしなけりゃね」という口調で、リズムよくお話が進んでいきます。



きみなんかだいきらいさ

ジャニス・メイ・ユードリー 文 モーリス・センダック 絵 こだまともこ 訳 富山房

センタ

ジェームスとぼくは大の仲良し。でも今日は違う。ジェームスなんて大嫌いさ!もうぜったい友だちになってやらないから!「きらいだ」と言いながら、ジェームスを気に入るほどの気持ちが変わってくる絵本です。

キャベツくん

長新太 文・絵 文研出版

チヨウ

キャベツくんが歩いていると、プタヤマさんに会いました。プタヤマさんがキャベツくんを食べると……、ヘビがキャベツくんを食べると……、タヌキがキャベツくんを食べると……。プタヤマさんとキャベツくんの珍妙なやりとりが続きます。



きょうは みんなでクマがりだ

マイケル・ローゼン 再話 ヘレン・オクセンバリー 絵 山口文生 訳 評論社

オクセ

ある晴れた朝、5人の狩人が、クマがりに出かけます。みんなで、ちょっとこわくないと言いながら、草原をぬけ、川を渡って、めかるみを越えると……さて、クマがりは成功するのでしょうか。リズムよく、歌のようにおはなしが進みます。

きよだいなきよだいな

長谷川摂子 作 降矢なな 絵 福音館書店

フリヤ

広い野原に次々と巨大なものが現れます。子どもたちは、それで思い切り遊びます。「あったとさ、あったとさ」と繰り返されるリズムカルな言葉と元気な絵が、読み手の気持ちをわくわくさせる楽しい絵本です。



いしんぼうのはなこさん



いしんぼうのはなこさん

いしいももこ 文 なかたにちよこ 絵 福音館書店

ナカタ

わがままな子牛のはなこは、体もりっぱ。チャンバラに勝ち、牧場の女王になりました。いばってばかりのはなこは、ある日、食べ物に独り占めしたので、一晩でおなかが大きなアドバルーンのようにになってしまいました。さあ、大変!

くまのコールテンくん

ドン=フリーマン 作 まつおかきょうこ 訳 偕成社

フリマ

デパートのおもちゃ売場のくまのコールテンくんは、誰かが買ってくれる日を待っています。ある日、女の子がコールテンくんを気に入りますが、つりひものボタンがないので買ってもらえません。コールテンくんは、夜のデパートへボタンを探しに出かけました。

